

2018年度聖学院大学総合研究所 競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会主催  
2018年度 競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会

発題：木下綾子「科学研究費申請書類の書き方、考え方」  
：大橋良枝「科研初心者が挑戦的研究を獲るまで」



左： 木下綾子准教授 右： 大橋良枝教授

2018年7月11日（水）、聖学院大学総合研究所競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会による2018年研究会が教授会室において開催された。同研究会代表の平修久副学長・政治経済学科教授の趣旨説明の後、木下綾子日本文化学科准教授及び大橋良枝心理福祉学科教授が科学研究費受給の体験談に関する講演を行った。その後、横山寿世理日本文化学科准教授（研究倫理委員長）から、研究倫理のeラーニングの受講に関する説明、菊池美紀研究支援課長から新しい科研費のタイプと研究支援体制などに関する説明が行われた。参加者は29名（講演者を含む）であった。

平教授による趣旨説明では、科研費獲得の意義、科研費受給の体験談を学ぶ効果などが説明された。

木下准教授は、「科学研究費申請書類の書き方、考え方」と題した講演を行なった。内容がすんなりと審査員の頭に入るように簡潔かつ明確な文章にすること、ゴシック体や下線により重要箇所を強調することなど、具体的なアドバイスがなされた。研究題目に関しては、科研費のデータベース（KAKEN）を参照しつつ、魅力的で構えの大きなものにすることが望ましいこと、さらには、協力者がいるなど研究環境が整っており、採択されればすぐに実施できることをアピールすることも重要であるとの指摘もなされた。

大橋教授は、「科研初心者が挑戦的研究を獲るま

で」と題した講演を行なった。競争的資金に応募しようと思った動機に続き、科研費のタイプとして、基盤研究と挑戦的研究の特徴を比較した上で、挑戦的研究で応募した経緯が説明された。挑戦的研究の申請書のポイントとして、新奇であること、萌芽期であることを強調する一方で、協力してもらった専門家を具体的にリストアップするなど、実現可能性を詳述すること重要であることが述べられた。概要は申請書の顔なので、研究計画が頭になじむまで、計画を徹底的に検討してから最後に書いたという話もあった。また、審査員の目を想像して書く重要性も強調された。科研費受給後、研究の好循環が生まれたという効果も語られた。

すべての講演及び説明の終了後、講演者と参加者の間で活発な質疑応答がなされた。参加した教員の研究活動ならびに競争的資金獲得に関する意欲が感じられたとともに、それを支える研究支援体制の確認もできた研究会であった。

（文責：平 修久 [たいら・のぶひさ] 聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授）

本

新刊のご案内

お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

聖学院大学研究叢書 10

テイリッヒと  
逆説的合一の系譜  
菊池 順 著

2018年6月25日発行  
8,500円（税別）

テイリッヒは、神と人間との  
<逆説的合一>の深みから、  
<存在への勇気>を語る。



聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324  
URL:https://www.seigyo.co.jp/